



# 「お金」は天下のまわりもの ～クレジットカード編～

千葉県公立中学校教諭

## 1. クレジットカードを学習材に

振り込め詐欺や悪徳商法による被害、多重債務や自己破産の増加－相変わらず起きている「お金」に絡んださまざまな問題を耳にするにつれ、今は関係ないように思っている生徒に「予防的・予習的な見地」から消費生活に関する事柄をしっかりと学習させる必要性と、そのための工夫が大切であることを痛感する。

しかし、経済分野の授業においてはどうしても用語の解説や説明が多くなりがちである。生徒が「なるほど!」と実感するもの、切実感を持って取り組めて今後の実際面にも活かしていける学習材はないのか。

やはり「お金」ははずせない。が、もう一工夫ほしい。そこで、以下の3点の理由からクレジットカードを学習材とした『「お金」は天下のまわりもの～クレジットカード編～』と称する授業実践を行った。

クレジットカードを学習材とする理由の第1は、クレジットカードから「現実の経済活動」を知ることができるからである。利用者(消費者)・カード会社・加盟店等が関わる経済活動であり、「契約」にもとづく「信用経済」の最たる例であること、また、それぞれが利用者(消費者)の購買意欲を喚起しながら利潤を追求していくこと、クレジットカードの利用拡大は個人消費の拡大であり経済の活性化につながっていく等、世の中で行われ

ている経済の姿を知ることができるからである。

第2の理由としては、すでに国民生活に幅広く利用されていること(発行枚数は2億8000万枚超、利用額はショッピングで32兆1000億円強、キャッシングで7兆5000億円、日本クレジット産業協会データより)、かつ、生徒の生活範囲内でクレジットカードに関する事柄を見聞きすることができるためである。生徒の家庭の多くはクレジットカードを所有・利用していると思われる。加えて、テレビではCMも数多く流されており、また、街のあちこちに無人キャッシング店舗や身近な店舗に貼られている利用可のステッカー等、実際に見聞きできる。

第3に、「お金の絡むリスク」を示す具体的事例の1つだからである。

クレジットカードは便利な反面、無計画な利用に伴い返済不能となったり、最終的には自己破産したりする者の増加の原因にもなっている。カード社会の中でリスクとどう関わっていくことが大切なのか等、利用者側として必要な知識や技能を考えさせる要素を含んでいる。

## 2. 授業プラン

クレジットカードをめぐる様々な問題のみを強調し「クレジットカード=悪いもの・使わないようにするもの」という前提には立たない。

前述のようにすでに社会で広く利用されている現状をふまえると、生徒はいずれカード所有者となるであろう存在である。

そこで、クレジットカードに関する基本的な事項の予習的理解と、「上手に関わっていくためにはどうしたらいいか、何が大切なのか」という将来の賢い利用に向けての判断の2点を主とし、社会科の学習として考えてさせていくものとする。

まず、生徒のほぼ全員が何らかのカードを持ち、利用している現状があり、世の中がまさに「カード社会である」ことを実感させる。そのうえで、クレジットカードの存在とその基本的な事柄－関わることになる人や会社・店舗、商品やお金の流れ、契約や信用に基づく活動であること等を取りあげる。その過程において、信用や契約、利益追求のための工夫等、経済の基本的なしくみや現実の経済活動について理解させる。

また、学習していることが現実の社会と結びついていること、今後活かされることを感じさせたいとの考えから、現実の社会との関わりを持たせる工夫を行う。1つは「人・物との関わり」として、専門的知識を持ったゲストティーチャーとの意見交換や利用シミュレーションを取り入れ、より具体的なアドバイスカードを作成していく。

もう1つは「社会への提言」である。作成するアドバイスカードは、クレジットカードをめぐる起きている様々な問題の今後の予防の一助としてであり、「今の世の中」に対しての提言である。そして、それはいずれカードを保有・利用するであろう「将来の自分」に対する提言でもある。

### 3. 生徒の学習結果

すでに様々なカードを利用している立場や

その経験をふまえたうえで、ゲストティーチャーとの意見交換やカード利用シミュレーションも取り入れたことにより、実感を伴った学習ができ、「アドバイスカードを作り、社会に提言していく」という学習のゴールを明確にしたことで、予想以上に高い関心を持続しながら学習に取り組んだ。

学習中・後もクレジットカードに関連するニュースに目を向けるようになり、新聞の経済版に「クレジットカード」の文字がないか探すようになった生徒も見られた。評価すべき意欲・態度である。

下記は「カードの管理・保管」に関するアドバイスカードの1例である。標語で呼びかけ、その補充としてわかりやすく解説を加えている。作成されたアドバイスカードのいくつかはクレジット業界の冊子に紹介されることとなり、多くの人への発信の形での「社会への提言」となる。学習と社会が結びついた満足感を得た。

#### 【呼びかけ標語】

まず貸すな 自分が契約「信用」カード

#### 【ポイント解説】

クレジットカードは信用に基づいた契約により成り立っています。カード会社から「あなた」に貸してもらっているもの、信用・契約を裏切る「他人に貸すこと」は絶対ダメです！

### 4. 終わりに

教室での学習内容と現実の経済生活とをいかに結びつけながら理解させていくか。

本実践を端緒とし、「身のまわり」からスタートし、やがて現実の経済活動という「社会全体の動き」へと視野を向けさせられる学習材の開発をめざしたい。